

ミニレター  
**あぜみち通信**

\* \* \* \* \*

平成19年9月1日  
81号

編集・発行：愛知県農業会議

**農業委員・事務局職員研修会を開催**

知多支部の研修会を8月6日半田市で、西三河・豊田加茂支部の研修会を8月9日安城市で、尾張・名古屋支部の研修会を8月10日稲沢市で開催しました。

知多支部研修会では、全国農業会議所事務局長の谷脇修氏から、「農業委員会活動に期待する」と題して、農業委員会組織を巡る情勢、農業委員会の基本的役割、農業委員会活動の重点課題について、わかりやすい講演を頂きました。

西三河・豊田加茂支部及び尾張・名古屋支部の研修会では、東京農業大学の八木宏典教授から、「農業委員会活動に期待する」と題して、日本農業の国際的位置、新たな「食料・農業・農村基本計画」とその柱、新時代農業の姿と農業経営のキーワード、農業委員会活動への期待について講演を頂きました。

農業経営のキーワードとしては、「7つのC」、Clean（安全・透明性） Creative（創造的） Clever（賢明） Challenge（挑戦） Consumer-oriented（消費者重視） Communication（交流） Coordination（調整）が大切で、意欲能力のある者が元気になれる農業・誰もが住みたくなる農村空間づくりに農業委員の活動を期待すると結ばれました。

**男女共同参画推進対策会議が開催されました**

愛知県農林水産部農業経営課主催による、男女共同参画推進対策会議が8月2日愛知県自治センター会議室で開催されました。会議には、農林水産業関係の女性団体や、JA・森林組合などの担当者が出席されました。

会議では、各団体における男女共同参画の推進状況や19年度の事業計画が報告されるとともに、意見交換が行われました。この中で、県の審議会の委員に占める女性の割合は、32.3%に達していることや、JA組織では、来年の改選に向けて女性役員拡大についての研究会を開催しているとの報告がありました。

農業委員における女性委員の割合の目標値（平成22年）は200人（女性比率14%）となっており、30市町村農業委員会の57人（4.2%）の現状は、今後一層の推進が必要な状況となっています。

学識者委員として出席された池田桂子弁護士（愛知県教育委員会委員長）からは、「（女性の活動を活性化するには発言力を高める必要がある。）発言力を高めるにはそれなりの立場が与えられることが重要。そうした場づくりを期待する。」とのコメントがありました。

## 農業者年金加入推進部長特別研修会が開催されました

8月2日・3日の両日にわたって、農業者年金加入推進部長特別研修会が岐阜市で開催され、東海4県から61市町村の農業委員会会長など132名の加入推進部長さんと農業会議の事務局職員が出席しました。

研修会では、挨拶された農業者年金基金の中川担理事長が自ら2時間を分担して、「農業者年金制度の概要と加入促進の取組み」について研修講師を務められ、農業者年金は平成13年度に制度改正が行われ、任意加入で積立て式の制度になったこと。加入要件も農業に60日以上従事、60歳未満の国民年金の1号被保険者の条件が満たされれば加入することができ、農地の権利を持っていない畜産業者や配偶者や後継者も加入することができること。支払った保険料は全額社会保険料控除として控除することができ節税効果が高いことなど、熱心に説明されました。

引き続いて、平成17年度に17名、18年度に51名の新規加入を達成した、長野県山ノ内町の農業委員会会長佐々木明雄氏から「顔と顔が見える加入促進」と題しての体験発表があり、大変良い制度などで、特に加入してほしいとお願いをしなくても制度の良さを理解してもらえれば加入してくれる。地域のために汗を流している農業委員さんが地域の発展のために、農業者年金制度の啓発に努めてほしいと話されました。参加された加入推進部長さん達も感銘を受けたようで、地域の農業者に対し制度の浸透を図ることを検討していました。

二日目は、ファイナンシャルプランナーの吉川進氏から、「外部から見た農業者年金の評価」の講演がありました。年金の必要性や公的年金の問題点とメリットについての説明の後、「農業者年金」を一つの金融商品として見た場合の評価を含めた説明がありましたが、結論的には、高齢化社会にふさわしい積立型年金で、農業者の老後の自立と自助に欠かせないメリットの多い制度で、「長期投資として見ても極めて投資効果の高いもの」とのことでした。

引き続いて、日本農業研究所理事・研究員で元愛媛大学農学部教授の岸康彦氏の「農政の潮流と地域活性化 - リーダーの心構え - 」についての講演がありました。

二日間の研修は、中身の濃いもので、研修を受けられた加入推進部長さん達は、今まで農業者年金の新制度について勉強する機会がなかったが、聞いてみると大変良い制度だということが分かったので、職務を全うしたいと意気込んでおられました。

## 常任議員会議（8月）の審議状況

知事諮問案件等を審議するための常任議員会議が8月16日開催され、農地法第4条に基づく転用事案35件24,832平方 $\text{m}^2$ 、及び第5条に基づく転用事案322件358,456平方 $\text{m}^2$ 、並びに農業振興地域の整備に関する法律第15条の2に基づく農用区域内の開発行為案件1件612平方 $\text{m}^2$ が審議され、住宅地の造成に当たっての雨水排水の処理、土砂採取の後の埋め戻し資材についての質疑がありましたが、いずれも許可して差し支えない旨答申することが議決されました。

また、土地区画整理法第136条の規定に基づく名古屋市長からの諮問、「名古屋市茶屋新田地区」（総面積147.5 $\text{ha}$ 、農地1,453筆966,445平方 $\text{m}^2$ ）についても、原案通りで了とすることが議決されました。

審議終了後は、30日開催の総会付議議案等について説明をし了承を頂きました。

## 愛知県立農業大学校が専修学校になります

愛知県立農業大学校は、農業改良助長法に基づく農業者研修教育施設として、将来の農業・農村を担う人材の養成を目的に実践的な研修教育を行っていますが、平成20年4月1日からは、これまでの農業者研修教育施設の位置付けに加えて、学校教育法に基づく専修学校としての位置付けも行い、新たな学校としてスタートします。

専修学校化を行う主な理由は、卒業生に「専門士」の称号が付与される。卒業生の4年制大学への編入学が可能となる。(独)日本学生支援機構の奨学金を借りられる。等の新たなメリットを学生に付与できるようにするためであり、この措置によって、農業を志す青年が一人でも多く入学されることが期待されております。

推薦入学の受付は、9月20日(木)～10月5日(金)、一般入学(第1次)の受付は10月22日(月)～11月14日(水)です。

問合せは、愛知県立農業大学校教育部学務科

郵便番号444 - 0802 岡崎市美合町字並松1-2

電話 0564 - 51 - 1602 FAX 0564 - 51 - 4831

web ページ <http://www.pref.aichi.jp/noudai/>

## 耕作放棄地実態調査説明会を開催

周辺農地や地域農業に大きな影響を及ぼすことが懸念される耕作放棄地について、農林水産省では、今後の発生要因の分析や対策検討の基礎資料とするため、各市町村農業委員会の協力を得て、耕作放棄地の分布状況を調査することとしました。

農業会議では、8月17日に東海農政局の農村計画部農村振興課の係官を招いて説明会を開催しましたが、東海農政局からの説明を受け、農業委員会事務局の方々から多くの質問が出され、問題の大きさを改めて感じた会議となりました。

愛知県では、2005年センサスでは8,911㌃、農業振興地域内のみでも2,511㌃の耕作放棄地があると言われますが、「食と緑の基本計画」で、耕作放棄地1,000㌃の解消を目標として掲げている他、「骨太の方針2007」でも5年をメドに農業上重要な地域では耕作放棄地を解消することが謳われています。

## 稲沢市農業委員会が農村生活アドバイザーとの意見交換会を開催されました

稲沢市農業委員会(近藤巖会長)は、8月23日愛知県農村生活アドバイザー協会尾張西支部(橋本良子会長)との共催による「意見交換会」を開催されました。

意見交換会には、農業委員11名と稲沢市在住の農村生活アドバイザー11名が参加され、自己紹介(農村生活アドバイザーは、経営概況・自分の役割、今後の経営と地区活動についての抱負。農業委員は、経歴や経営概要。)の後、遊休農地・耕作放棄地の解消・防止をテーマに意見交換が行われました。

「農業委員は農地の情報を把握し切れない。JA・市町村が責任を持って意欲ある人に利用させたら。」、「転作の強制はおかしい。売れる状況作りをお願いしたい。」、「自分で価格が決められないのが残念。消費者の理解を得るため努力している。後継者に意欲が出るようにして欲しい。」、「農産物価格は低迷しているのに用水費等農家の負担が大きい。」、「景観作物だけでは耕作放棄地の解消には繋がらない、儲かる農業が出来るよう対策を。」などの意見が出されました。

農業会議では、農業委員と認定農業者等との意見交換会の実施をお願いしており、平成18年度に実施された農業委員会は13委員会でした。認定農業者に限らず、女性や青年農業者を対象にした意見交換会も地域の声を吸い上げて頂く上で有効な取組ですので、それぞれの市町村の状況に応じての開催をお願いします。

#### **賛助団体会議を開催**

8月7日白壁庁舎において、賛助団体の総務関係の部課長さんなどの出席を得て、賛助団体会議を開催しました。

会議では、本年度第1回の総会に提出する議案・特別決議などについて説明しご意見を伺いました。

#### **認定農業者組織連絡会議を開催**

愛知県担い手育成総合支援協議会では、8月7日白壁庁舎において、認定農業者組織連絡会議を開催しました。

会議には、認定農業者組織を持つ8市の会長・事務局職員が出席し、各市連絡会の活動状況や経費の分担方法などについて情報交換を行うとともに、意見交換を行いました。

「認定農業者制度が、本来の経営改善計画の宣言・認定と言った趣旨が薄れ、政策支援を受けるための認定へ変化しており、認定農業者も多様化している。」、「青年農業士、農業経営士などの組織があり、認定農業者の組織化をしても取組内容が重複する。」、「市町村の範囲では認定農業者の経営内容は様々、研修は県内を3地域程度に分けて、消費者や企業経営者との交流を含めての開催を。」など、活発な意見が出されました。

愛知県担い手育成総合支援協議会では、昨年度に引き続き、「認定農業者交流会」の開催を予定しております。その内容等についてご意見・ご希望が有りましたら、事務局までお申し出下さい。

認定農業者の組織が設立されているのは次の市です。

碧南市(8.11)、豊明市(10.10)、豊橋市(15.2)、岡崎市(16.7)、  
知多市(16.8)、稲沢市(17.3)、大府市(17.4)、田原市(18.7)

#### **農業委員会事務研究会第48回総会が開催されました**

8月17日白壁庁舎において、愛知県農業委員会事務研究会(会長：古川正美稲沢市農業委員会事務局長)の理事・監事会及び第48回の総会が開催されました。

総会では、年間3回の研修会開催、中日本ブロック農業委員会職員現地研究会への参加、申請用紙の共同印刷などの事業報告及び決算が承認され、11月上旬に本県で開催する中日本ブロック農業委員会職員現地研究会への積極参加などを内容とする平成19年度事業計画及び予算案が承認されました。

中日本ブロック農業委員会職員現地研究会は、11月6・7の両日にわたって、グリーンホテル三ヶ根を会場に、実践報告をもとにしたパネルディスカッションと情報交換会、全国農業会議所専門相談員渡辺章氏の農地制度・政策の見直しをめぐる動きについての講演などが予定されています。

## 平成19年度第1回総会を開催

8月30日午前10時半から愛知県水産会館において、平成19年度第1回の総会を開催しました。

総会には、会議員88名の内83名が出席し、来賓として、愛知県知事、愛知県議会議長、東海農政局長、愛知県農農業協同組合中央会長を始め多くの方々にご臨席頂きました。

総会では、平成18年度事業報告及び収支決算が承認され、欠員となっていた副会長に愛知県市長会長の増岡錦也氏が選出されました。

また、名古屋支部長の寺島正支部長から、「遊休農地の発生防止・解消対策の強化について」の申し合わせ決議の提案があり、「農地は荒らさず耕作するもの」との認識のもとに積極的な活動を展開すること、農地パトロールの実施により農地利用の総点検を行うこと、「要活用農地」の所有者等への指導・相談活動を徹底すること、等が決議されました。

## 特別研修会を実施

8月30日午後1時から、愛知県水産会館において、特別研修会を開催しました。これは、愛知県担い手育成総合支援協議会の「担い手アクションサポート事業地域活動推進支援研修会」としても開催されたもので、市町村農業委員会会長さんや賛助団体の職員さんら約110名が参加され、二人の講師から講演を頂きました。

アチーブメント江見塾の江見明夫塾長さんからは、「三感（感動・感謝・歓喜）の経営道」と題して、講演を頂きました。

先生からは、「高い志・大きな夢・強い使命感を持って、何事にもプラス思考で旺盛な好奇心とトキメキの心を保ち、日に10回の感動・100回の感喜（歓喜）と感謝をして、何時も笑顔で声高らかに笑い飛ばして。」と、担い手の減少など課題の多い農業委員会さん方への激励を頂きました。

続いて、東海農政局構造改善課の西田満夫課長補佐からは、「担い手農地集積高度化促進事業の推進について」のご説明を頂きました。

## 女性常任会議員と農業委員会女性職員との意見交換会を開催します

農業従事者の過半数を女性が占める中では、女性の視点での農業・農村の活性化に向けて地域農業関係者の太い「絆」づくりを進めることが今後の愛知県農業の発展に欠かせないものであり、女性農業委員さんの農業者への情報提供活動をサポートする上で、農業委員会職員とりわけ女性職員に求められる役割が今後ますます大きくなっていくと思われます。

愛知県内の農業委員会組織には、57名の女性農業委員さんと二人の女性常任会議員が活躍しておられますが、愛知県農業会議では、農業委員会法に定められた「情報提供活動」を通じた「絆」づくりを強力に進めるため、女性常任会議員と農業委員会女性職員との意見交換会を開催することとしました。

具体的には、10月4日午後、3時間をかけて、「絆」づくりのための情報収集活動や情報提供の手法、そのための全国農業新聞等の活用方法などについて、相互の意見交換を行う予定です。

意見交換会の運営等についてご意見が有りましたら、業務課までお申し出下さい。

## 愛花協だより

愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会では、県内の農業青年約300名で組織される愛知県4Hクラブ連絡協議会と共催で「農業青年との交流会」を開催します。

9月16日(日)午前11時から岡崎市駒立町の寿々園(すずえん)グレープガーデンで開催される交流会には、インターネットなどでの募集に応じた独身女性やそのグループ(定員40名:二次募集中)と4Hクラブの会員約40名が参加の予定で、ブドウ狩り、クラブ員手作りの農産物を使ったバーベキュー、ゲーム等で交流を深める予定です。

こうした取組によって、農業青年の配偶者確保が図られ、農業の担い手確保と農業の活性化に寄与出来ればと思います。

## 今後の主な行事予定

- 9月 3日(月) 新城設楽・東三河支部農業委員・事務局職員研修会 (豊川市)
- 9月4・5日 都道府県農業会議事務局長会議 (東京都)
- 9月 4日(火) 海部北部地域協議会認定農業者研修会 (愛西市)
- 9月 5日(水) 農業経営改善状況調査説明会 (白壁庁舎)
- 9月 7日(金) 愛知県担い手育成総合支援協議会幹事会 (白壁庁舎)
- 9月11日(火) 全国都市農政対策協議会担当者会議 (大阪市)
- 9月12日(水) 農業体験農園推進委員会作業部会 (大阪市)
- 9月13日(木) 農地地図情報等普及検討会 (白壁庁舎)
- 9月14日(金) 愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会幹事会 (白壁庁舎)
- 9月16日(日) 愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会男女交流会 (岡崎市)
- 9月18日(火) 常任議員会議 (白壁庁舎)
- 9月21日(金) 元常任議員稲垣翠氏叙勲祝賀会 (西尾市)
- 9月28日(金) 半田市認定農業者研修会 (半田市)
- 10月4日(木) 女性常任議員と農業委員会女性職員の意見交換会 (中区)
- 10月5日(金) ~ 7日(日) 農林水産フェア秋 (名古屋市 吹上ホール)

## あとがき

記録的な猛暑となった8月も終わり、朝晩の涼しさに癒される頃となりました。

9月の風物詩に「風の盆」があり、今は富山市の一部になった八尾に伝わる「風の盆」は、高橋治の小説や石川さゆりの歌の他、最近では渡辺淳一の小説でも取り上げられ一躍有名になりましたが、二百十日にあわせて行われる風鎮めの行事です。

胡弓の伴奏で坂の多い町を踊りながら流す踊り手の、女性の浴衣には稲穂が描かれ、男性は野良着を思わせるはっぴ姿。踊りの手振りも田均し・田植え・稲刈りを真似たものがあり、台風の被害の無いことや豊作を祈った先人の心を感じさせるものです。

米の需給調整が、様々な助成策を講じつつも、農業者・農業者団体の主体的な取組を重視したシステムへ切り替えられた今年、今のところ風水害も少ないようですが、コメ価格形成センターでの初取引で落札が無いなど、豊作を素直に喜んでおれない状況のようです。

安倍改造内閣が発足し、農林水産大臣には山形2区選出の遠藤武彦氏が就任されました。「地方が良くならなければ、国が良くなるはずがない。地方経済の活力なくして、国家経済の繁栄もない。地方とは、圧倒的多数の中小零細企業と農業と、そこに働く人々そのものだ。」と、説かれる新大臣に期待する方も多いと思います。

